

名古屋市博物館だより

編集・発行／名古屋市博物館 〒467-0806 名古屋市瑞穂区瑞穂通1-27-1
TEL (052) 853-2655 FAX (052) 853-3636 <http://www.museum.city.nagoya.jp>

平成26(2014)年1月1日発行 (年4回1・4・7・10月)
3,800部発行 無料 古紙パルプ配合再生紙使用

特別展
文字のチカラ
古代東海の文字世界

千年の時を超えて
古代日本人と出会う

1月4日(土) — 2月16日(日)

名古屋市博物館

(写真・左から) 刻書須恵器「寺」(関市・国史跡 弥勒寺西遺跡 関市文化財保護センター) / 木簡「測評竹田里」(浜松市中区・伊場遺跡 浜松市博物館) / 木簡「足」(浜松市中区・梶子遺跡 浜松市博物館) / 陶印「美濃」(岐阜市・国史跡 老洞 1号窯跡 岐阜市歴史博物館) / 御野国加毛郡半布里大宝二年戸籍断簡(個人蔵) / 「王賜」銘鉄剣(千葉県市原市・稲荷台1号墳 市原市教育委員会)

開館時間 午前9時30分 — 午後5時 (入場は午後4時30分まで)
休館日 毎週月曜日 (祝日の場合はその直後の平日)・第4火曜日
会期中の休館日: 1月6日(月)・14日(火)・20日(月)・27日(月)・28日(火)・2月3日(月)・10日(月)
主催 名古屋市博物館 愛知県立大学 愛知大学 文化庁
連携大学 名古屋市立大学
協力 古代の文字と文物の研究会 国立歴史民俗博物館 奈良文化財研究所
料金 一般 600円(400円) 高・大生 300円(100円) 中学生以下 無料 ()内は団体料金(20名以上)

「タイム・シップ」に乗って、時を超えてきた文字たち

弥生時代に文字と出会った日本人は、やがて必要に応じて文字を使い、木・布・土器・金属・石そして紙などにその活動を記録しました。この展覧会には、木簡(文字が書かれた板)や墨書土器・銘文を持つ刀剣・ハンコ・石碑・古文書など、古代のさまざまな文化財が登場します。

文字は、物に書き付けられるものですから、その物体自体が消えてしまうと、文字だけでは時空を超えていくことはできません。たとえば続々と発見されて新たな情報を提供してくれる木簡に書かれた文字も、木簡という名の、いわば「木の小舟」に乗って字としての形を保てたことで、千年以上の時を超えて私たちの前に再び姿を現すことができました。

しかし木簡は、条件の良い土中でたまたま形が残っただけの、極めて弱い物体です。発見された後、変形や破壊の危機をくり抜けた幸運な木簡だけが、光と空気の中でも比較的安定した物体となり、

今回、展示室で私たちの目の前に姿を現します。

また、より古い時代の鉄剣の銘文からもたらされる情報は、記録が伝わっていない時代の日本の歴史の復元にとっては、確実にしっかりした礎^{いしづえ}になります。たとえそれが断片的な文章であっても、書き写されて残った日本書紀・古事記などの研究とつきあわせることで、古代史研究は大きく前進してきたのです。

奈良時代の正倉院の宝物は、誰もが認める奇跡の遺産でしょう。しかし展示室に並ぶ木簡などの出土遺物も、しばしば「地下の正倉院」とも称されるように、全く引けをとらない奇跡の文化財なのです。今回の展覧会では、こうした木簡など地下から出土した文字と、紙の文書として長く地上に伝来した文字とが、約1,300年ぶりに顔を合わせます。どうぞこの再会に立ち会って、肉筆から古代日本人の息づかいを感じてみてください。(加藤和俊)

文字のチカラ

古代東海の文字世界

1月4日(土)

2月16日(日)

●特別展

第1章 文字との出会い

古代の日本人「倭人」、漢字なるものを知る

古代日本では弥生時代の1世紀に、まず北部九州の人々が中国や朝鮮半島との交流のなかで漢字を知りました。漢字が書かれた貨幣・鏡などの品も、彼らを介してしだいに西日本全体に広がっていきます。その広がり東の端が、まさに東海地方でした。

弥生時代末から古墳時代にかけての3～4世紀頃、一部の地域で、漢字に似た記号のようなものが記されるようになります。漢字や文章を正しく書くことはできないけれども、しかしそれぞれが異なる意味やことがらを指すものだという事は知っている、この頃の日本人「倭人」たちは、漢字に対してそんな学習の段階にいたようです。

第2章 文字を取り入れる

中国・朝鮮半島から来た文字文化、東海へ

7～8世紀の飛鳥・奈良時代になると、国の政策として、中央や地方の役人を中心に漢字を広く普及させました。この漢字の普及を主に担ったのは、朝鮮半島からの渡来人たちでした。

都から東海地方へは、中央の洗練された文字文化が直接、いち早く普及した形跡があります。濃尾平野の豪族たちが天武天皇の始めた新しい国家づくりを強力に支えたこともあって都と東海地方の盛んな往来を示すように、飛鳥京の時期の木簡には美濃や尾張などで書かれたものが多く出土しています。また文字が刻まれた東海産の須恵器もいくつも見つかっています。

第3章 文字で記録する

文字の習得のようすと、文書による政治

当時の人々の肉筆が残る大量の木簡の他に、実際に筆写に使った硯などの文房具も発見されています。それらによって、漢字や言葉を練習し、書き記した、古代人の日常を知ることができます。

文字という共通認識の習得が基礎となって、規則を理解した文書が作られ、命令なども文章で出すようになりました。戸籍や帳簿なども作られ、事務処理もはかどるようになりました。これが、現代につながる文書行政の始まりです。文字によって日本は、国家としての機能を強化していきました。

第4章 文字の花が咲く

文字文化の開花—神話・歌・文学・信仰

飛鳥時代に、日本語の音に漢字をあてた「万葉仮名」が生み出され、日本語を文字化していきます。また中国文化へのあこがれから、漢詩を書き、和歌も万葉仮名で表記するなど、文芸創作の中でも文字を使いこなしていきます。

また、神話も、神仏を祀る儀式で唱える歌も、魔除けの呪文も、みな万葉仮名や漢文によって文字化されていきます。さらに万葉仮名から「ひらがな」が創りだされ、漢字を基礎にした日本の文字文化は独自の文学を生み出す域にまで達していきます。

日本に定着した文字は、こうした精神世界と深く響き合うことによって、日本独特の新たな文字文化をはぐくんでいったのです。(加藤和俊)



都に篠島特産の干物を納めます

木簡「御贄」(国重要文化財)
奈良市・国特別史跡平城宮跡
奈良文化財研究所



1300年前の文房具のデザイン

鳥形硯・羊形硯(国重要文化財)
三重県明和町・国史跡 齋宮跡
齋宮歴史博物館



お供と馬と一緒に外出

木簡「淵評竹田里」(静岡県指定文化財)
浜松市中央区・伊場遺跡
浜松市博物館



私は中国皇帝公認の王。

金印「漢委奴国王」(複製)
福岡市東区志賀島
当館(原資料は国宝・福岡市博物館)



千年の時を超えて 古代日本人と出会う

「王賜□□敬□」



王から与えられた宝剣

「王賜」銘鉄剣
千葉県市原市・稲荷台1号墳
市原市教育委員会

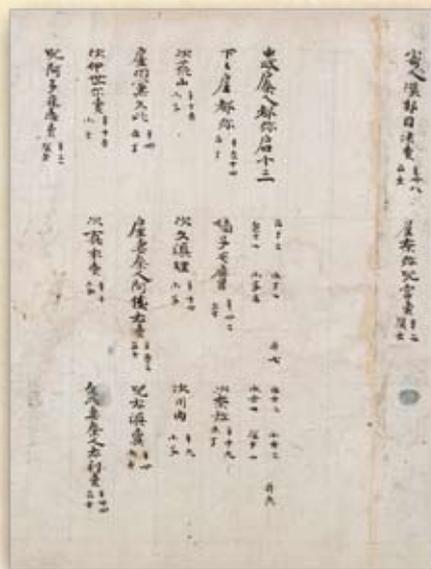
薬師寺を建てたいきさつは…

薬師寺東塔標銘(拓本)
奈良市・薬師寺 当館



住んでいるのはどんな人々

御野国加毛郡半布里大宝二年戸籍断簡
(国重要文化財)
個人蔵



メイド・イン・美濃
ブランドの証明

陶印「美濃」(国重要文化財)
岐阜市・国史跡老洞1号窯跡
岐阜市歴史博物館



初めて出会った漢字

貨泉
名古屋市西区・堀越町遺跡
名古屋市中見晴台考古資料館



地方の役所の公印

銅印「伊保郷印」
(豊田市指定文化財)
豊田市郷土資料館



歌を書きます「いろはにほへと」

墨書土器「いろは歌」
三重県明和町・国史跡 齋宮跡
齋宮歴史博物館



学芸員の仕事の醍醐味

博物館や美術館の専門職である学芸員は、どうやら人気職種の様です。10年ほど前、娘が見せてくれた就活の本には、「学芸員」が就きたい職種の上位にありました。好きなことができそうだからでしょうが、そこには同時に、高い専門性が必要でしかも門戸はきわめて狭いともありました。そのとき私は、初めて娘から尊敬のまなざしめいたものを感じた気がします。

そんな学芸員という仕事を続けること30余年。専門の研究をささやかながら続けつつ、さまざまな展覧会を企画してきました。最近では誰かがやらなくてはいけないマネジメントの仕事が中心となってきましたが、陸に上がっても学芸員は学芸員。新たな発見をしたり、すばらしい文化財に出会う喜びを忘れることはできませんし、それがあったからこそ続けられたと思っています。ここでは、わずかではありますが、私の学芸員人生の中で強く記憶に残る喜びの時をご紹介します。

▼ 時空を隔てた人との出会い

美術館在籍時代に、〈ゴッホと日本〉というテーマで展覧会開催を検討したことがありました。その時、アムステルダムのゴッホ美術館で所蔵する全浮世絵版画(約450点)を調査する機会が得られました。それらはゴッホの持っていた浮世絵版画です。

ゴッホは自分で浮世絵の展覧会を開くほど浮世絵に関心が高く、自分自身の作品の中に浮世絵を描き込むこともよくありました。1枚1枚手にとって見ている時に、ゴッホと同じものを見ているのだ、触っているのだと、それなりに良い気分でしたが、作品の四隅にピンの穴が空き、その穴の周囲に付着した赤い錆の痕跡に気付いた時、壁に浮世絵を貼っているゴッホの姿が思い浮かんだのです。至福の瞬間でした。役得と言われるかもしれませんが、こうした実感があってこそ、人々に伝える責任を感じることができるのです。

▼ 作品との出会い

1991年開催の特別展「不屈の画人魂 北斎」が終わって間もない頃、「マキ」さんから一本の電話がありました。「うちにある北斎さんの版画を見ていただけませんか」というのです。北斎と「マキ」といえば、北斎の名古屋における一番弟子牧墨僊まきぼくせんを連想しました。それを尋ねると、果たしてその通りでした。北斎は二度の名古屋滞在時、墨僊の家(現在の栄のラ

シックのあたり)に逗留して、『北斎漫画』の下絵を描いていたのです。さっそく訪問しました。

見せられたのは2冊の画帖。北斎や同時代の浮世絵師や墨僊の摺物、名古屋の版画、墨僊の銅版画などが100枚ほどおさめられていました。その中に、驚くなかれ世界中でも希少な北斎作品「ひらがな落款洋風画」が3枚含まれていたのです。北斎が西洋画風を積極的に導入した記念的な作品です。「何で展覧会の前に教えてくれなかったの」とは露ほども思いませんでした。展覧会のおかげで、この素晴らしい作品たちと出会うことができたのですから。すぐに名古屋市博物館でお預かりすることになり、いまは名古屋市博物館の所蔵になっています。

▼ 資料の「出世」

30年近く前、名古屋市内のお寺さんから、所蔵する古画について相談を受けました。大きな屏風がたくさんあって管理も大変だから預かってほしいというものでした。文化財保存のためには可能な限り応じなければ、などと考えながら出向きました。

ずら一と並べられた屏風を順に見ていくと、古そうな屏風がありました。水墨の山水図6曲1双屏風です。落款はありませんが、室町時代、15世紀までさかのぼる可能性があります。

博物館で対応できる屏風作品は預かることとし、少しずつその古屏風を調べていくと、15世紀後半、室町時代のいわば正統的な山水図屏風と確信するようになりました。とすれば、数少ない遺例としてきわめて貴重なものです。こうしてお預かりした資料が、1993年には、未指定からいきなり重要文化財の指定を受け、画集に載るようになり、そして2012年には権威のある美術雑誌『國華』に紹介されたのです。こうした出世はとてもうれしいものです。

学芸員の仕事には、多かれ少なかれ、こうした驚きと喜びがともないます。しかし、醍醐味は決して一人だけで獲得できるものではなく、さまざまな人の支えがあってこそ、その醍醐味を味わうことができるのです。皆に感謝しなければなりません。また、一人で喜んでいただけならば好事家です。学芸員には、文化財から見いだした意味や意義、優れたもののとの出会いを、市民に提供し共有しなければならないという重大な責務があることを忘れてはなりません。可能ならばそれにとまなう喜びや感動、ワクワク、ドキドキを添えて。

(副館長 神谷浩)

東日本大震災と埋蔵文化財の調査

—宮古市派遣の記録—

岩手県の沿岸地方に所在する宮古市。昨年9月までNHKで放送された、岩手県久慈市をモデルとするドラマ「あまちゃん」をご覧になった方は、ドラマ中の「北三陸鉄道リアス線」の終着点として思い出されるかもしれません。宮古市を含む東北地方の太平洋沿岸地域では、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震により甚大な被害が発生し、今なお復興の途上にあります。

被災地での埋蔵文化財発掘調査

被災地では、被災者のための新しい住宅の建設が急がれています。また、復興のための道路整備や、各種施設の建設も急ピッチで行われています。こうした建設工事が行われる場所に遺跡（埋蔵文化財）がある場合、事前に発掘調査を実施しています。

もちろん遺跡調査は、復興の妨げにならないよう、速やかに行われなければなりません。しかし、現地の担当者だけでは対応できないことも多いため、全国各地の文化財担当者が被災地に派遣され、遺跡の発掘調査にあたっています。名古屋市も今年度、宮古市の発掘調査に協力することとなり、その派遣職員として7月～9月の間、発掘調査に従事しました。

宮古市での発掘調査

宮古市には、国史跡崎山貝塚をはじめ縄文時代の遺跡が数多くあります。また、関東以西の地域との交流が活発化した平安時代以降の集落跡が多いことも知られています。名古屋では縄文時代の遺跡を調査することはあまりありませんが、私も発掘調査は数多く経験していますので、効率的な発掘調査を進める役には立てるだろうと考え、宮古に向かいました。

7月1日に宮古市役所で辞令を受け取り、早速2日から、田老地区の越田松長根I遺跡、その後9日



日の出町II遺跡調査の様子

からは日の出町II遺跡の調査に携わりました。日の出町II遺跡では、縄文時代の遺構や古代の竪穴住居が見つかったほか、縄文時代早期から古代の膨大な量の遺物が出土しました。縄文時代の落とし穴、縄文時代後期の多量の土器など、名古屋では経験したことのない遺構・遺物の調査は新鮮でした。

上司や同僚職員の配慮によって、発掘調査に専念すればよい環境が築かれ、とても充実した日々を送ることができました。ただ、発掘調査の進め方も、見つかる遺構や遺物も異なるため、戸惑うことも多く、「宮古でもできるだろう」という当初の自信が揺らぐのを感じました。それでも、やっと宮古の発掘調査になじんできた頃、私の派遣期間は終わりました。

発掘調査を円滑に、手際よく進めていくことなど、名古屋ではできると思っていたことが、条件の異なった宮古では思っていたほどにはできず、「井の中の蛙」であったことを痛感させられました。

被災地と埋蔵文化財の保護

被災地では、復興事業の遅れが取り沙汰されています。遺跡の発掘調査もその遅れの原因の一つとされることがあります。そうした声に対し、地元の関係者の方は東奔西走し、遺跡が原因で遅れたということのないようにと努めています。そうした努力もあって、現地で遺跡調査についての批判を直接聞くことはありませんでした。しかし、このような緊急事態のときに、遺跡の調査がなぜ必要なのか、という声があるのは確かです。

文化財の貴重さ、重要さという一般的な説明については、遺跡の調査に批判的な方も十分承知でしょう。しかし、復興が急がれている時に、それだけで納得して頂くのも難しいように思いました。現地にいる間、そうした声にはどのように答えるべきなのか考えていましたが、満足な答えはまだ見つかりません。ただ、そうした人たちにも文化財の持つ可能性が感じられるよう、成果を活用し、還元していく活動が重要なのは確かだと思います。

派遣期間の3か月の間、思っていたようには調査が進められず、宮古の役に立っているのかと考えることもありましたが、周囲の人たちにも恵まれ、充実した日々を過ごすことができました。そして、災害に備えること、災害が起きた場合の対応、地域の方との関わりの重要性など、多くのことを学びました。今回の経験を、名古屋市での仕事に活かすことが今後の課題です。特に、文化財保護の意味づけは、被災地だけの問題ではありません。日々の活動の中で、答えが見つければと思います。（村木誠）

国際浮世絵学会
創立50周年記念

大浮世絵展

会期
2014.
3/11 [火]
5/6 [火]

「見返り美人」 名古屋初公開!

彼女のポーズを真似てみましょう。新しいダイエット法?!と思うぐらい、不自然なことに気付かず。しかしこのポーズだからこそ、髪型や鮮やかな着物のデザイン、帯の結び方、そして女性の曲線美がよく分かります。【3/11~3/30 展示】



葛飾北斎「冨嶽三十六景 神奈川沖浪裏」ギメ東洋美術館蔵 ©RMN-Grand Palais (musée Guimet, Paris) / Richard Lambert / distributed by AMF【3/26~5/6 展示】

- ◎展覧会が“浮世絵の教科書”に!
- ◎浮世絵の「国際選抜」!
- ◎あなたの好きな浮世絵に出会える!



菱川師宣「見返り美人図」東京国立博物館蔵
Image : TNM Image Archives

《きもの特典》

「見返り美人図」の展示期間中、和服でご来場の方にプレゼントを差し上げます。



重要文化財 東洲斎写実「3代目大谷鬼次の江戸兵衛」東京国立博物館蔵
Image : TNM Image Archives
【4/23~5/6 展示】



東洲斎写実「市川女蔵の奴一平」ギメ東洋美術館蔵 ©RMN-Grand Palais (musée Guimet, Paris) / Harry Bréjat / distributed by AMF 【4/8~5/6 展示】

危険なご対面!

わずか10か月ほどしか活躍しなかった東洲斎写実。彼は印象的な歌舞伎役者の舞台姿を描きました。実はこの2枚の版画、左の男が右の男を襲おうとしている芝居の場面を描いたもの。一触即発の緊張感が2人の間に漂います。1枚だけでも名品ですが、2枚並べるとよりいっそう緊迫感が伝わります。それぞれ普段は東京とフランスにありますが、4/23~5/6 は2人を対面させて展示します。



歌川国芳「相馬の古内裏」館蔵 (高木繁コレクション)

これも浮世絵?!

巨大な骸骨が、にゆうっとご登場。江戸時代後期に人気のあった物語の一場面で、滝夜叉姫が妖術で骸骨を出現させたところです。170年前に描かれた迫真的な骸骨の表現にご注目ください。【4/1~4/20 展示】



歌川広重「名所江戸百景 大はしあたけの夕立」高浜市やきもの里から美術館蔵

ゴッホが模写した浮世絵!
江戸の風景を描いた歌川広重の名品です。オランダの画家であるヴァンセント・ヴァン・ゴッホも刺激を受けて、この絵を油絵で模写しています。
【3/11~3/30 展示】

…月、雪、花、紅葉にうちむかひ、歌をうたい、
酒のみ、浮きに浮いてなぐさみ、手前のすり
切りも苦にならず、沈みいらぬころだての、
水に流るる瓢箪のごとくなる…。

●浮かれ浮かれて

この言葉は『浮世物語』(寛文5年[1665]頃刊)のなかで述べられた「浮世」の説明です。

17世紀半ばのこと。「どうせ思うようにならないこの世を生きるのなら、いつそ思いっきり楽しもうじゃあないか。そうだ、すり切り(貧乏)だつて気にしない。水に流れる瓢箪のように、浮かれ浮かれてこの世を楽しもう」という気風が世の中に溢れていたのです。「浮世絵」というのは、こうした享乐的な雰囲気の中で17世紀後半に生まれた絵画です。描かれているのは浮世を刹那的に楽しむためのもの、つまりその時代に流行した風俗です。具体的にいうならば、人気の歌舞伎役者、評判の美人や遊女などがその主たるテーマとなりました。

●展覧会が“浮世絵の教科書”です。

しかし時代の進展とともに、描かれる内容も多種多様なものとなっていきました。先に述べた役者絵や美人画のほかにも、名所絵、相撲絵、武者絵、ユーモアのある戯画、大坂発の浮世絵である上方絵、明治時代に登場した血みどろ絵や新聞錦絵などなど。浮世絵を通して、私たちは江戸文化の豊かさを実感することができるのです。

国際浮世絵学会創立50周年記念「大浮世絵展」は、浮世絵が持つ多彩なジャンルを網羅し、さらに江戸時代初期から近代(17世紀後半～20世紀)まで時代を追って浮世絵を紹介します。名品を時代順にたどる、“浮世絵の教科書”といえる展覧会です。

*「国際浮世絵学会」は浮世絵に関する世界で唯一の学会であり、「大浮世絵展」はその創立50周年を記念して、東京都江戸東京博物館・名古屋市博物館・山口県立美術館で開催される展覧会です。

●浮世絵の「国際選抜」です。

17世紀後半の日本に誕生した浮世絵は、いまや世界中で愛されており、海外の美術館でも大切に収蔵されています。この展覧会では、世界各地45カ所から340点もの浮世絵を集めています(展示替のため常時150点ほどが会場に並びます)。それらはイギリスの大英博物館、フランスのギメ東洋美術館、ドイツのベルリン国立アジア美術館、アメリカのホノルル美術館といった海外有数の美術館に加え、国内でもとびきりのコレクションから選抜された浮世絵たちです。いわば浮世絵界の「国際選抜」メンバーともいえるべき傑作が、名古屋に集合するのです。

●あなたの好きな浮世絵に出会えます。

「富嶽三十六景」シリーズは、昨年富士山が世界文化遺産に登録された際、テレビでさかんにとりあげられたことをご記憶の方もいらっしゃるでしょう。



歌川広重「東海道五拾三次之内 庄野白雨」館蔵【全期間展示】

「歌川広重」と「安藤広重」は同一人物です。「安藤」は彼の本姓ですが、画号としては「歌川」を使用しているため、近年では「歌川広重」と表記しています。

また「見返り美人」は切手で、「東海道五拾三次之内」は、マッチ箱やお茶漬けとともに思い出される方も多はず。なにより江戸文化を学習する際、浮世絵は必ず教科書に登場します。浮世絵は現代の私たちにとっても馴染み深い絵画作品といえるでしょう。

傑作が揃うこの展覧会では、皆さんが「あっ、これ知ってる!」という浮世絵の「本物」に遭遇することができます。その一方で、時代もジャンルも多彩な作品を見ることができるため、いままで知らなかった新しい浮世絵の魅力を発見できるかもしれません。

そう、この展覧会では、あなたが会いたかった浮世絵、好きな浮世絵に出会えます。(津田卓子)

会期 2014年3月11日(火) - 5月6日(火)
開館時間 9:30 ~ 17:00(入場は16:30まで)
休館日 毎週月曜日(ただし4月28日[月]は特別開館)、第4火曜日[3月25日(火)、4月22日(火)]
観覧料 一般1,300(1,100)円 高大生900(700)円 小中生500(300)円

※()内は前売および20名以上の団体料金。

※前売券は12月1日(日)から3月10日(月)まで本展公式サイト、名古屋市博物館、主要プレイガイド、主なコンビニエンスストア、チケットぴあ(Pコード=763-171)、セブンイレブン(セブンコード:025-345)、ローソンチケット(Lコード=41216)、イーブラスなどで販売。
※名古屋市交通局の一日乗車券・ドニチエコきっぷを利用して来館された方は100円割引。※身体等に障害のある方は手帳の提示により、本人と介護者2人まで当日料金の半額。※各種割引は重複してご利用していただくことはできません。ご了承ください。

主催/名古屋市博物館、国際浮世絵学会、読売新聞社、中京テレビ放送 協賛/パナソニック 協力/日本航空

《講演会》午後2時から(午後1時30分開場)、講堂にて(先着220名)。12時30分より聴講整理券を先着順にて配付(1名様1枚限り)。

聴講には本展チケット(観覧済み半券可)が必要となります。
3月16日(日)「役者絵と美人画の真実」講師: 神谷 浩(名古屋市博物館副館長)
4月5日(土)「広重・国芳37歳 それぞれの道」講師: 津田 卓子(名古屋市博物館学芸員)
4月12日(土)「浮世絵に遊び、学ぶ」講師: 小林 忠 氏(国際浮世絵学会理事長・岡田美術館長)

《作品の展示替について》

作品保存(退色を防ぐ等)のため、本展覧会では毎週作品の展示替えを行います。展示替えの詳細については今後、公式ホームページに掲載予定です。

公式ホームページは

<http://www.ctv.co.jp/event/ukiyo/e/>

《リピーター割引のご案内》

本展をご覧になった方が観覧済のチケットを会期中にご持参いただくと、当日券1枚が200円割引となります。ぜひご利用ください。

資料紹介

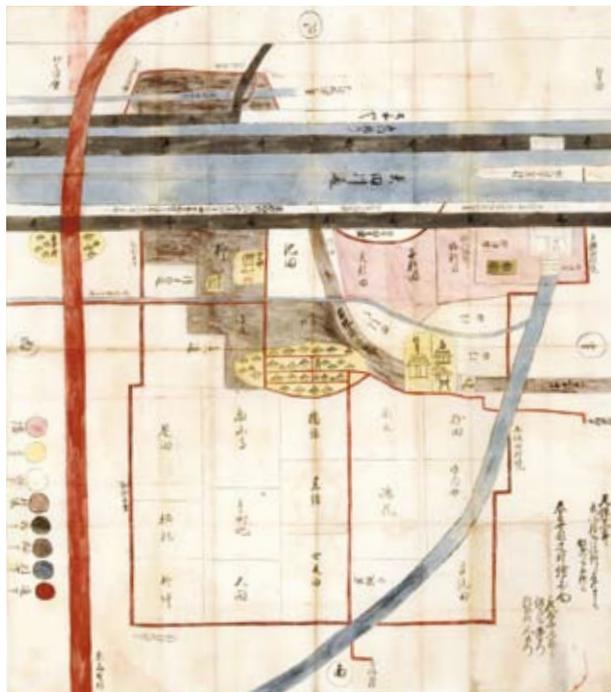
春日井郡辻村絵図

天保12年(1841)

現在すっかり宅地化された名古屋市域は、江戸時代には城下町を除き、田畑が広がっていた。そのころのようすを知るには、村絵図が大いに参考になる。ここでは春日井郡辻村(北区辻町付近)の村絵図を見よう。

村絵図は、江戸時代初めから必要に応じ作成されたが、寛政年間(1789～1801)尾張国全村に村絵図の作成・提出が命じられた。名古屋市域には100以上の村があったが、寛政村絵図は市域で10点ほどしか現存していない。次に尾張藩全域に村絵図の提出が命じられたのは、天保12年(1841)4月である。実際の村絵図作成作業は、翌月の5月から9月にかけての比較的短期間に実施された。尾張藩伝来資料を所蔵する徳川林政史研究所と愛知県図書館に、大半の尾張各村村絵図が現存しており、また村方にも控図が残っていることがある。ここで紹介する名古屋市博物館所蔵の春日井郡辻村絵図も、村方に伝来した図と思われ、徳川林政史研究所にほぼ同一の図が残されている。なお、弘化2年(1845)と4年にも、かなりの村が村絵図を作成・提出している。

この辻村は矢田川の左岸にある村で、絵図に見えるように集落が^{もと}一か所にかたまっていた。村高は、^も元高で462石余、^だ概高で583石余、田畑合わせて36町7反余で、うち84%が田であった。畑と集落は矢田川のすぐ南にあり、自然堤防と思われる微高地にあった。江戸時代後期の人口は43戸208人で、当時の標準かやや小さめの村であった。村絵図には「修善寺」とその東隣に「氏神(神明社・今の羊神社)」が見



え、畑地には「山之神」「白山社」が点在していた。

この絵図で見逃せないのは、村の東北に「御杖」があることである。杖は川から用水を引き入れたり、悪水を川に落とす場所にある施設で、現在の水門にあたる。御用水とは御深井御庭の池と名古屋城の堀に水を引き入れるため、寛文3年(1663)に造られた用水である。また名古屋城下町に施された水道の水源でもあった。御用水の水は春日井郡川村(守山区)で庄内川から取り入れられており、辻村で矢田川の川底を通っている。つまり、この杖はその出口にあたるのである。

なお、田は正方形に近い四角形で、字ごとに区別されているが、これは古代条里制の名残である。

(種田祐司)



「よみがえれ文化財！」にご寄附ありがとうございました

博物館だより206号でお知らせしましたように、名古屋市博物館では資料を修復・活用するための教育基金への寄附を募っています。多くの皆様にご賛同いただき、平成25年10月初めに当面の目標であった1千万円に到達しました。

これにより、伊勢参宮図屏風の修復や古墳時代の刀剣の保存処理、写真資料のデジタル化などをすすめていくことが可能となりました。厚くお礼申し上げます。

「よみがえれ文化財！」は、名古屋市博物館が所蔵する貴重な文化財を後世に伝えるための事業です。ひきつづき広く皆様のご理解・応援をお願い申し上げます。

寄附は、教育基金あてに専用納付用紙で行っていただきます。博物館で配布していますので、詳細はお問い合わせください。

電話 052-853-2655